



いせや さぶろう
第27回特別功労賞（業績） **伊勢谷 三郎**（苗1966） ファサードエンジニア 旭ビルウォール株式会社ガラス材料領域フェロー

【功績と推薦理由】

伊勢谷三郎氏は、ガラスを中心としたファサードエンジニアリングの先駆者として、DPGをはじめとしたガラスのフレームレス点支持工法、リブガラスの耐震二重枠工法、SSG工法といった、今では当たり前となり多くの建築で使われている技術を研究・開発・普及させただけでなく、ガラス支持材料の構造やディテールにまで踏み込んだ提案を行ってきました。2023年に受賞された日本構造デザイン賞松井源吾特別賞の受賞理由にも「ファサード・エンジニアリングを通じた建築および構造デザインへの顕著な貢献」とあり、建築家や構造家との協働を通じて難易度の高いファサードデザインを実現しています。現在も光の当たり方や見る角度で様々な色に変化するダイクロイックコーティングガラスの三次元曲面加工や化学強化ガラスといった新しい技術にチャレンジし続けており、ファサード・エンジニアリングの第一人者として活躍されています。

その他にも、自ら行ったガラス強度実験に基づいて作成された許容耐力計算基準は、現在に至るまで国土交通省告示の基準として使われており、また、霞が関ビルに関与した際は、超高層ビル時代を迎えるにあたり日本で初めてのカーテンウォール実大性能試験（風圧・水密・耐震）を行い、試験方法も確立されました。

ガラスを中心としたファサード・エンジニアリングおよびデザインに対する長年の貢献から、稲門建築会特別功労賞に相応しい業績として推薦いたします。

推薦者；松井 章一郎（苗1989）

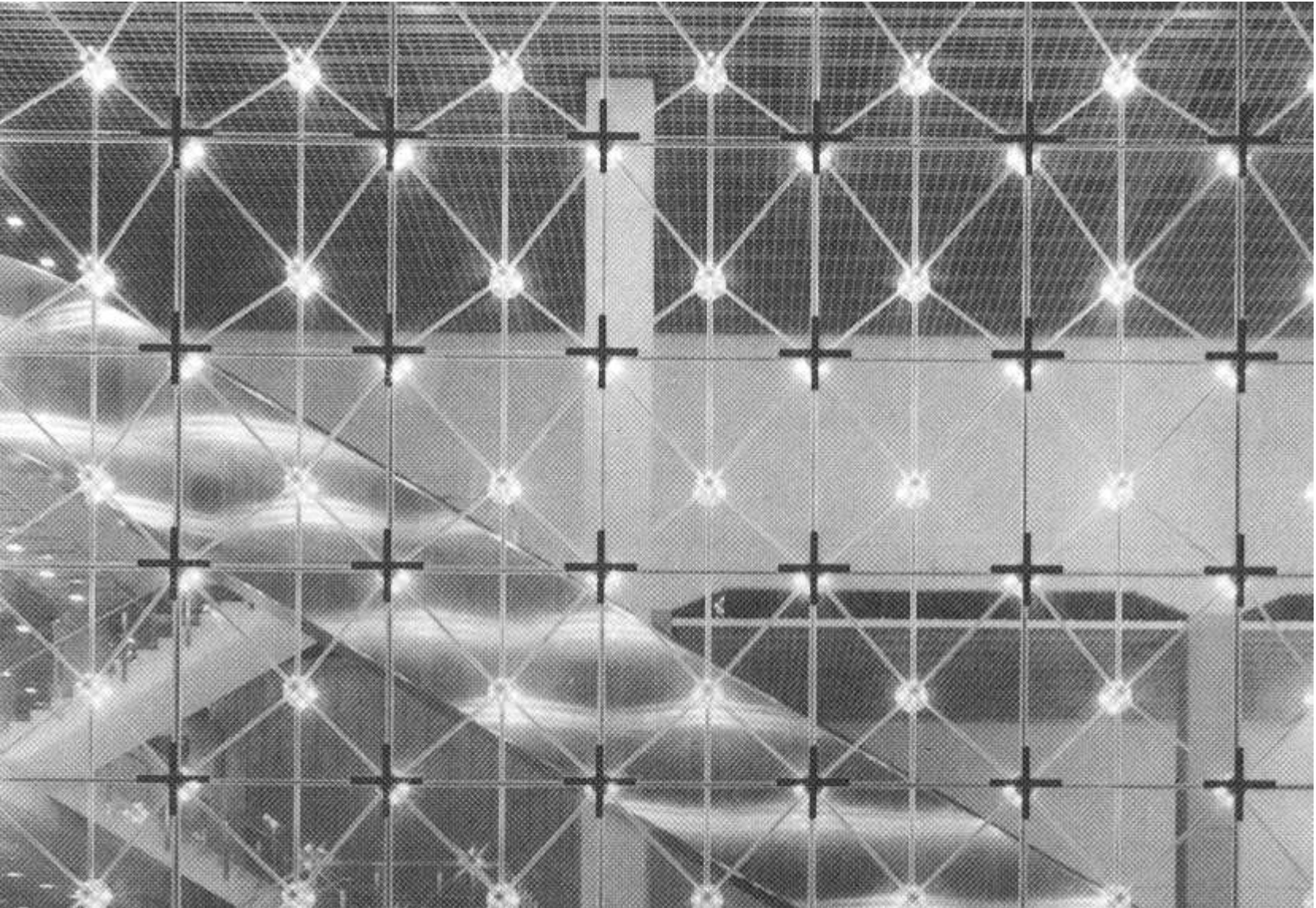
【略歴】

1943年生まれ。
1966年早稲田大学理工学部建築学科卒業
1966～1969年旭硝子株式会社中央研究所硝子商品研究室
1969～2000年旭硝子株式会社東京支店硝子開発課
2000～2008年旭硝子ビル建材エンジニアリング株式会社
2008年～旭ビルウォール株式会社

【主な関与作品等】

- ・霞が関ビル（1968年）：日本初のカーテンウォール実大性能試験の実施及び試験方法の確立
- ・万国博美術館（1970年）：ガラスのフレームレス点支持工法（世界初）
- ・リブガラス耐震二重枠工法の開発
- ・小国町交通センター（1986年）、西部ガスミュージアム：国内におけるSSG工法の確立
- ・東京倶楽部（1992年）：日本初のDPG工法によるファサード
- ・日本長期信用金庫本店（1993年）、JTビル（1995年）：DPG工法によるアトリウム
- ・東京国際フォーラム ガラス庇（1996年）：リブガラス接ぎ手工法による10mの片持ちガラス梁
- ・モエレ沼公園 GLASS PYRAMID（2003年）：複層ガラスDPG工法によるアトリウム
- ・森美術館ミュージアムコーン（2003年）：横連窓下見板風のDPG工法
- ・国立新美術館（2006年）：全ての形状が異なる3,500枚ガラスルーバー
- ・多摩美術大学附属図書館（2007年）：曲面かつ上部R加工ガラスをSSG工法で取り付け
- ・ルイ・ヴィトン メゾン大阪御堂筋（2019年）、同銀座並木通り店（2021年）：三次元曲面ガラスファサード
- ・高強度・高平滑性（歪みなし）を持ち自爆もない化学強化ガラスを用いた新工法の開発（現在進行中）

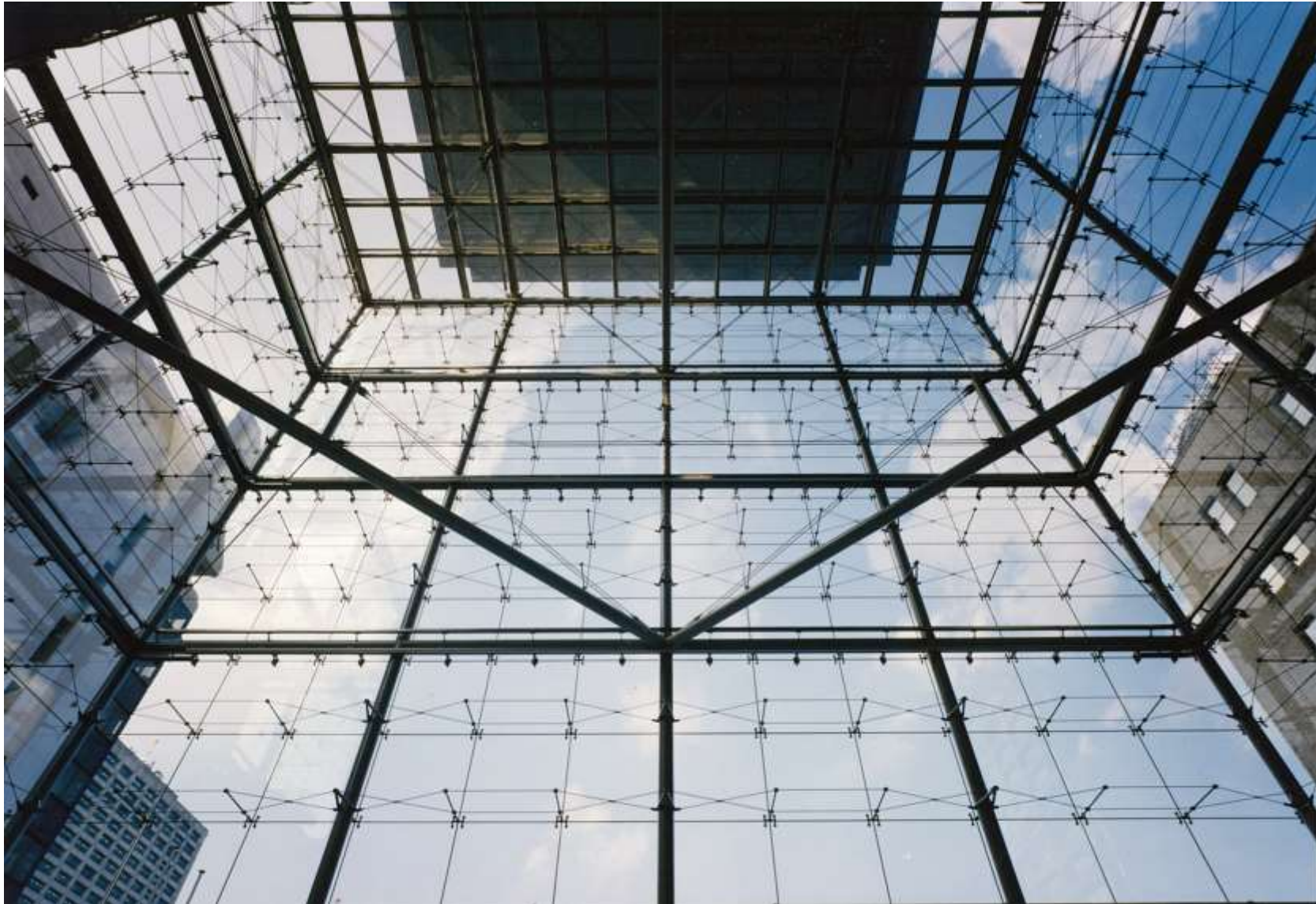
主な作品



万国博美術館（1970年）
設計：川崎清
画像提供：彰国社



東京倶楽部（1992年）
設計：鈴木エドワード建築設計事務所
撮影：松井章一郎



日本長期信用金庫本店（1993年）
設計：日建設計
撮影：スタジオサワダ（澤田勝良）



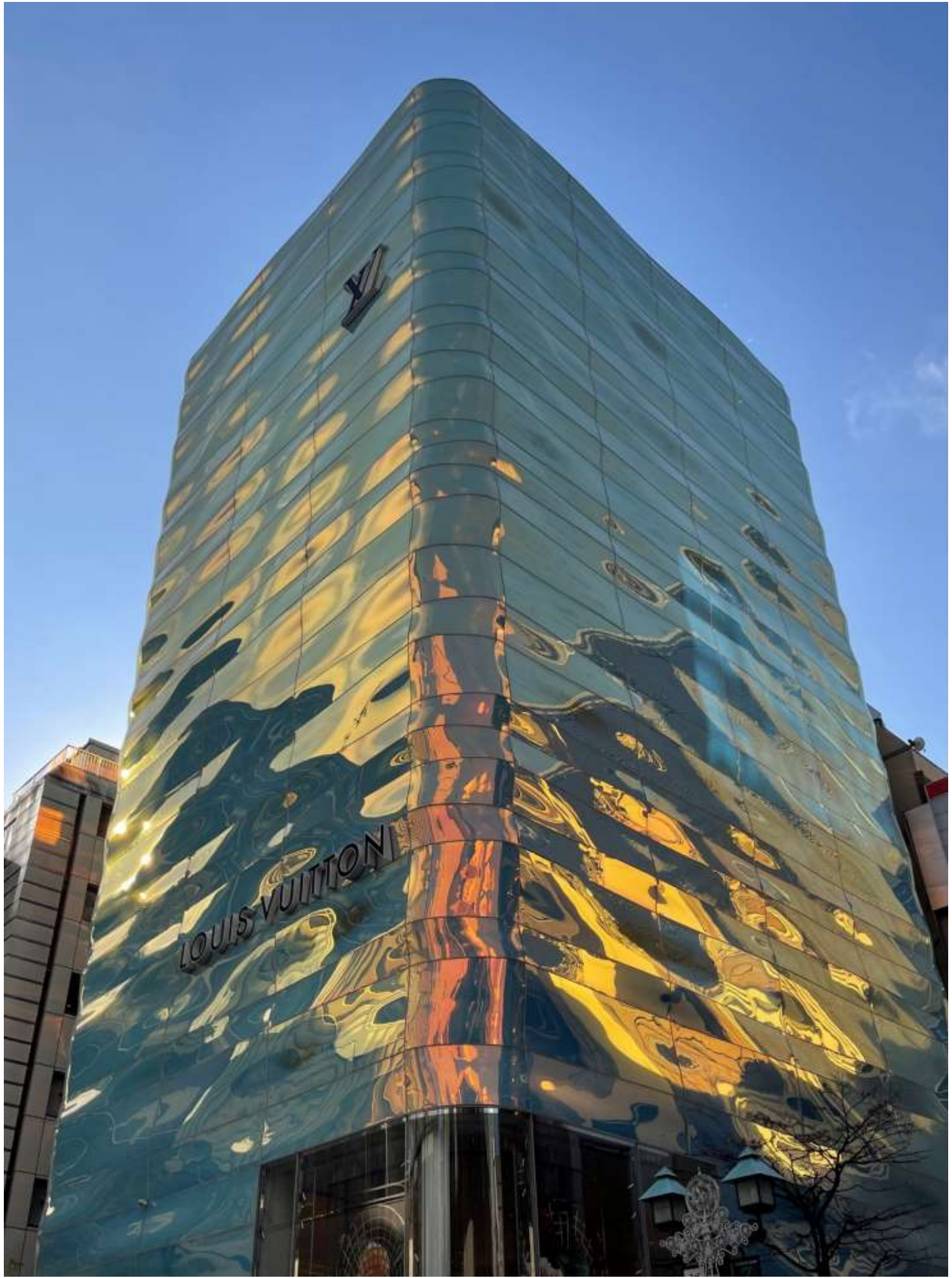
東京国際フォーラムガラスキャノピー（1996年）
設計：ラファエロ・ヴィニオリ設計事務所
撮影：松井章一郎



多摩美術大学附属図書館（2007年）
設計：伊藤豊雄建築設計事務所
撮影：齋藤俊一郎



ルイ・ヴィトン メゾン大阪御堂筋（2019年）
設計：青木淳建築計画事務所
撮影：貝野悠



ルイ・ヴィトン メゾン銀座並木通り店（2021年）
設計：青木淳建築計画事務所
撮影：松井章一郎